入間市教育委員会

１　研究主題

子どもの自立を支援する幼・保・小連携体制の構築と充実を目指して

２　ねらい

幼稚園・保育所と小学校との滑らかな接続を図る体制の構築、充実を図り、子どもの自立を支援する。

３　本市における各学校等の設置状況（平成２２年４月１日現在）

	幼稚園			保育所			小学校
	市町村立	私立	合計	市町村立	私立	合計	市町村立
施設数	1	9	10	11	14	25	16
幼児・児童数	83	2078	2161	1134	1194	2328	8314
教職員数	9	169	178	258	356	614	366

４　幼・保・小連携のための組織

入間市幼年教育連絡協議会

５　事業の年間計画

（１）幼年教育連絡協議会による事業計画概要

・公開授業・公開保育　６・１０・１１月　　・子育て講演会　１１月

・幼年教育連絡協議会会議（年間３回）

（２）子ども未来室事業による取組概要（年間を通して推進）

・子どもの支援に関する事業　　・子育て中の親の支援に関する事業

・保育士・教師等の支援に関する事業

６　研究の具体的な取組

（１）幼年教育連絡協議会の事業取組

ア　小学校の公開授業と研究協議及び保育園（所）・幼稚園の公開保育と研究協議

本取組のテーマを「保育園・保育所・幼稚園から小学校への連結を円滑にし、一人ひとりの子どもを小学校生活に適応させるために必要なこと」と設定し、公開授業（公開保育）と併せて研究協議会を開催した。

小学校１校（藤沢北小学校）と保育園・保育所・幼稚園から２施設（豊岡保育所・あんず幼稚園）で公開した。教師と保育士等が、互いを知り、テーマに基づいた研究協議の中で、情報・意見交換を行うことは、教職員の相互理解を促進する限られた機会ではあるが、幼児教育を支える上で、大変有意義なものとなった。

藤沢北小学校での研究協議

豊岡保育所での研究協議

イ　子育て講演会

幼児教育を支えていく上では、保護者への啓発・支援も重要である。子どもを巡る今日的な課題を踏まえた子育て講演会を開催し、保護者、家庭と、子どものよりよい育ちと学びの実現へ連携していくことに努めた。今年度は、南和歌山医療センター小児科医師　星野恭子先生をお招きし、講演会を開催した。

（２）入間市子ども未来室事業の取組

子ども未来室事業は、入間市に育つ子どもたちの確かな育ちと学びを実現し、一人一人の自立を総合的に支援していくことを目的とした事業である。

教育委員会学校教育課を主担当としながら、関係各課と連携して事業推進している。この一人一人の自立を総合的に支援していく事業の中に、保・幼・小の連携に係る事業を位置付けている。

ア　子どもの支援に関する事業

（ア）すべての子どもへの支援

ａ　「遊びと学びの手引き」の活用

小学校就学前の４か月と入学後の２か月に焦点化し、その期間を通した育ちと学びを連続性のあるものとして位置付けた。

保育園・保育所・幼稚園では、遊びや生活を通した学びを大切にしながら、小学校就学へ向けた育ち、いわば、生活習慣や社会性の基礎等、この時期に身に付けたい自立の力を確かめ、伸ばしていくことを主な内容としている。

また、小学校では、それを受けて、新たな環境での生活や学習への連続性を意識した指導で、小学校入口の子どもたちの育ちと学び、いわば生活習慣や学習習慣、集団生活での自立の基礎等をさらに伸ばしていくことを主な内容としている。

「遊びと学びの手引」

すごろくあそび

発表の仕方と声の大きさ

ｂ　保・幼・小の交流

年間の中で、単発的な扱いの交流活動だけでなく、長期間にわたる交流活動を実施することで、小学校就学へ向けて、幼・保の子どもたちの抱える不安が徐々に期待に変わっていくことを目指した。

特に、この交流活動では、農作物をつくる活動を中心にした取組が行われた。

さつまいもの栽培

ポップコーンの栽培

（イ）「育ちの記録シート」の作成

子どものよりよい成長を支えるためのものとして活用

・乳幼児から成人まで使用
・保護者が保管し、保護者が記入
・記録できるところから記入
・成長の記録として記入
・支援のヒントになると思われる項目を記入
・支援や指導をしてもらった項目を記入

育ちの記録シート
「おちゃめ」

イ　発達障害又はその疑いのある子どもへの支援

（ア）巡回支援・巡回相談の実施

発達障害又はその疑いのある子どもへの対応には、早期発見・早期支援が大切である。特に、理解不足や誤解から生じる、二次障害に至る前に適切な対応を図ることが何よりも肝要である。

保・幼・小の連携を進める上で、極めて今日的な課題といえる発達障害を巡っての取組においては、全市をあげての対応を図っていくことの必要性から本事業取組を推進した。幼保小においては、臨床心理士が、中学校においては、スクールソーシャルワーカー等が訪問し、適切な支援方法について具体的に助言した。

（イ）スーパーアドバイザー巡回支援・ペアレントサポート講座の実施

（ウ）幼児の通級指導教室（名称：「茶おちゃお」）の設置

小学校未就学児が、週に１回程度通う教室で、支援員が子どもと個別にかかわり、コミュニケーション能力を高めたり、感情のコントロールをできるようにしたり、生活をしやすくしていくための支援を行うところである。

幼児の通級指導教室入口

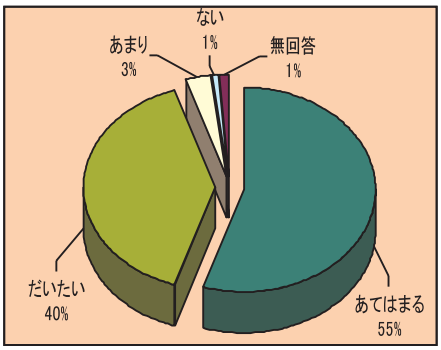
小学校には、４校に設置されおり、今後保・幼・小の連携をさらに図っていくことで、子どものよりより成長の支援に有益なものとなることと期待できる。

イ　子育て中の親の支援に関する事業

「親の学習講座」（名称：茶の花 茶―ミング）

幼児教育の充実を図る上で、子ども、教職員への支援と併せ、子育て中の保護者、親の支援では、本市独自の視点から内容構成した親の学習講座を柱の一つとして実施している。

講座の様子



講座は、親のあり方を振り返る上で参考になった

ウ　保育士・教師等の支援に関する事業

保・幼・小の連携を図る上で、事業に関連させた研修会（発達障害及び保・幼・小連携）を実施した。

管理職対象の大きな動向についての講演会をはじめ、教師・保育士対象の保・幼・小連携の実際についての講演会を実施した。

○　発達障害に関する研修会

期　日	講　師	対　象	参加人数
4/6	教育研究所臨床心理士　渡辺咲子	発達障害児支援員	１２名
5/27	立教大学教授　大石幸二氏	教務主任・教員	５４名
6/30	立教大学教授　大石幸二氏	校長	２７名
7/16	埼玉大学准教授　名越斉子氏	発達支援員、保育士等	３０名
8/2	日高特別支援学校コーディネーター	肢体不自由介助員	３８名
10/4	狭山特別支援学校コーディネーター	学童保育室職員	５５名
長期休業日	特別支援学級担当者研修会	特支学級担当者	２６名
3/3	えじそんくらぶ代表　高山恵子氏	保育士、教員、管理職等	１７９名

○　保幼小の接続・連携に関する研修会

期　日	講　師	対　象	参加人数
11/30	白梅学園大学大学院教授　無藤隆氏	保幼小の園長、所長、校長	６４名
1/18	白梅学園大学大学院教授　無藤隆氏	幼稚園担任、保育園（所）保育士等	６９名

エ　その他の事業

・　事業の広報

事業取組については、学校・施設等の関係者のみならず、事業説明のプレゼン、市の広報紙等を通して、広く保護者、市民への広報を行い、周知及び啓発を図っている。

７　成果と課題

（１）成果

・　連携体制による組織的な対応について、既存のつながりを最大限に活用することで、その質的充実を図ることにもつながった。

・　本事業を推進する中で、幼児期から学童期における幼少期の教育の充実へ向けた保育士、教師等の意識向上を図ることができた。

（２）課題

・　各事業において、その検証と改善を行い、次年度以降の事業展開に向けた準備を進め、質的な充実を図る。

・　関係機関とのさらなる連携についても検討を重ねていく必要がある。

一つの小学校に複数の保育園・保育所・幼稚園から就学する現実をふまえ、子どもの成長の連続性を支えるためには、点の対応から面の対応がより一層求められる。

今後も、一人一人の子どもたちのよりよい成長を支援し、各発達過程における自立への自信とその確かな力を身に付けられるようにするために、計画的、継続的に事業を推進するとともに、幼少期の教育の充実を図る連携体制の充実に努めていきたい。